

開催日時：2015年3月23日（月）12時30分～13時30分

開催場所：早稲田大学BF会場

出席者

領域代表（任期2014/04-2015/03）：門野良典（KEK）、

領域副代表（2014/04-2015/03）：遠山 貴己（東理大理）

次期領域副代表（2015/04-2016/03）：佐藤 憲昭（名大院理）

次々期領域副代表（2016/04-2017/03）：常次宏一（東大物性研）

元領域代表：小形正男（東大院理）

現運営委員（2014/04-2015/03）：

三宅厚志（東大物性研）、鈴木通人（理研）、小林 義明（名大理）、望月維人（青学大理工）、
米澤進吾（京大院理）

現運営委員（2014/10-2015/09）：

川崎慎司（岡大理）、酒井志朗（理研）、 卞舜生（東大院工）、浅井栄大（産総研）

次期運営委員（2015/04-2016/03）：

谷田博司（広大院先端物質）、松浦弘泰（東大院理）、酒井英明（東大院工）、町田洋（東工大理）
池内和彦（CROSS）

13時30分前後の出席者数 23名（上記運営委員含む）

議題1. 領域名称表示の変更

領域8の名称を「強相関係」から「強相関電子系」に変更する事を提案し、去年の理事会にて承認された。

->今大会より使用を開始。領域HPなども更新済み。

議題2. 第9回日本物理学会若手奨励賞（領域8）

授賞式及び記念講演会（3月21日，21aBD 10:30~12:15）

以下、受賞者（現所属）、授賞対象の業績題目を講演順に記す。

1. 宇田川 将文（東京大学大学院工学系研究科）

業績題目：遍歴電子系における幾何学的フラストレーション効果の理論的研究

Masafumi Udagawa (Department of Applied Physics, University of Tokyo)

“Theoretical studies on the effect of geometrical frustration in itinerant electron systems”

2. 大成 誠一郎（岡山大学理学部物理学科）

業績題目:軌道揺らぎによる鉄系超伝導発現機構の研究

Seiichiro Onari (Department of Physics, Okayama University)

“Study of Mechanism of Superconductivity in Iron-based Superconductors by Orbital Fluctuation”

3. 桂 法称(東京大学大学院理学系研究科)

業績題目:マルチフェロイクス系における磁性と強誘電性の理論的研究

Hosho Katsura (Department of Physics, University of Tokyo)

“Theoretical studies of magnetism and ferroelectricity in multiferroic systems”

議題 3. 第 70 回年次大会サマリー

3-1. 領域 8 からの提案シンポジウム

3 月 21 日 13:30~16:55 BD (領域 8, 3)

「スピン軌道物理の新展開 - Kitaev 型異方的相互作用が創出する新奇な物性」

3 月 22 日 13:30-17:00 BD (領域 8)

「励起子絶縁体とその周辺の新展開: 新物質, BEC-BCS クロスオーバー, 圧力誘起超伝導」

3 月 23 日 13:30-17:00 BD (領域 8)

「銅酸化物におけるノン・ドープ超伝導の可能性に迫る」

3-2. 領域 8 からのチュートリアル講演

3 月 22 日 9:15-10:15 BD (領域 8, 3, 5, 素粒子論領域, 理論核物理領域)

「磁気スキルミオン」 理研 CEMS 十倉好紀

3-3. 他領域との共同提案シンポジウム

3 月 21 日 13:30-17:00 AD (領域 3, 8, 11 合同)

「スピン系の磁場誘起量子相・トポロジカル相の新展開」

3 月 21 日 13:30-16:55 AJ (領域 3, 4, 8, 9, 10, 11 合同)

「第一原理計算手法の現状と展望」

3 月 22 日 13:30-16:50 AS (領域 7, 8 合同)

「分子性固体におけるキャリアドーピングの新展開」

3-4. 他領域との共同提案企画・招待講演

3 月 21 日 9:00-9:30 BC (領域 4, 領域 8 合同)

「ピスマスにおける磁場誘起ディラック・バレー分極」 ESPCI Kamran Behnia

3 月 22 日 10:45-11:30 CJ (領域 8, 9, 10, 11 合同)

「数学的アプローチによる物性探索」 東北大 小谷元子

3-5. 会場割りに関して

・ポスター会場

3号館 6-8階の4部屋（6階）、6部屋（7階）、5部屋（8階）と、小部屋が3階にわたって点在しており、講演数も最大130件程度に制限された。また、低温と領域6（24件）のポスターが合同開催となったため、低温のポスターの一部を磁性のポスターに回した。

3/22 午前、重い電子系、籠状物質、有機導体など（126件）

3/24 午前、領域6(24件)+低温（101件）

・口頭発表会場

主に8号館、シンポジウム用に350人以上収容可能な部屋（BD会場）を使用した。

最終日のみ14号館DC会場を使用した。

議題4. 領域委員会報告（2014年11月12日（水）、11:00～17:45）

4-1. シンポジウム、企画講演について

領域8からの3提案については問題なく承認。

（前回からの改善点）

・提案者に対して事前にルールをよく確認するよう周知した。

・提案の受付の締切後、各領域で提案内容に関して次のように点検・調整する期間を設けた。

提案間の内容の重複、講演時間、登壇者所属等あらかじめ定められたルールを満たしているかどうかの確認を行い、必要に応じて提案者と協議しながら提案の修正を行う。

4-2. 大会募集要項合同領域の記載方法について

・現在の大会募集要項に記載されている、「合同セッションのある領域」欄が、わかりづらかったため、各領域に前回秋季大会インフォーマルミーティングでの検討をお願いしていた。

・領域からの回答が配布され検討の結果、次回2015年秋季大会募集要項より変更予定となった。

2015年2月に秋季大会の募集要項案を送付するので、その際、各領域運営委員に検討をお願いする事とした。

・事務局で現時点での「合同セッションのある領域」の一覧を作成する。

->議題6. 合同セッションに関して

4-3. 若手奨励賞について

・前々回（2013 年 11 月）領域委員会で、複数の領域への応募・推薦について、現在の「日本物理学会若手奨励賞実施要綱」と各領域の内規で整合性がとれない事が指摘された。

・それにより、内規変更をした領域もあったが、領域間で必ずしも足並みが揃っていない。そのような場合への対応が明確でなかったため、改めて議論することになった。

（結論）：今後は複数の領域への応募・推薦は認めない。

（理由）：候補者が複数の領域で受賞者になった場合、そのことを各領域の選考委員会が知ることは受賞者全員の名前が公知の事実になった後である。にもかかわらず、重複受賞を避けるための受賞辞退などに伴っていずれかの領域で再度受賞候補者を選考する必要があるなど、選考委員への負担が増大する。

次回（第 10 回）募集に間に合うよう、「実施要項」を変更する事とした。

4-4. 登壇者変更について

・素粒子論領域より、年次大会での会期中の登壇者変更について、領域代表の許可を得るのは、会場ではむずかしいため、「運営委員」の許可で対応できないかとの要望があった。

・会期中の対応については、「運営委員」あるいは「座長」でもよいとした。ただしその場合は、会期後に領域代表の承認を得る必要があり、承認されない場合は、講演の記録から削除する。

・本部には、必ず事後報告をするよう対応する。

・次回より、会場の座長に、「急な登壇者変更」についての本部宛ての報告もお願いする事とした。（事務局で、報告書フォームを作成する。）

4-5. 年次大会の正式名について

・現在の年次大会の記載は、「第 XX 回年次大会」であるが、この表記だと年がわからないとの意見が代議員総会で出た。

・「第 XX 回年次大会（XXXX 年）」と変更する事が承認され、第 70 回年次大会より、対応する事とした。例）「第 70 回年次大会（2015 年）」

4-6. その他

4-6-1. 講演スライドの英語での作成推奨について

国際化にむけて、スライドは英語作成を推奨してもよいのではないかと。

日本生物物理学会は、現在、登壇もすべて英語。今後とも要検討、議論。

4-6-2. 概要集の電子化について

- ・前領域委員会での議論（詳細は2014年秋季大会インフォーマルミーティング議事録2-2を参照。）に基づき、第70回年次大会から、概要集が電子化されWebアクセス権と記録用DVDとして販売されることが報告された。
- ・アクセス権については、使用する方全員が購入するようインフォーマルミーティング等での周知を依頼した。
- ・不正アクセスの解析についても意見が出されたが、今回は最終形ではなく、今回の販売数等を検討し、今後さらに検討する予定とされた。
- ・価格がもう少し高価でもよいので、SDカード・USBメモリーでの販売希望もあった。
- ・学会参加登録費が一律1,000円値上げされたが、概要集代が大幅に値下げされたので、参加者の合計負担額は減額された。

-> 議題7. 概要集の電子版配信に関する議論

4.6-3. 領域11 非会員学生の登壇料について（事務局）

- ・資料に基づき、現在の領域11で登壇する「機械学会」「気象学会」の非会員学生について説明があり、今後、両学会に問い合わせ確認後、改めて本制度について検討する事となった。
- ・領域10も他学会の学生について同様な対応を希望する可能性があることが述べられたが、個々の領域での対応ではなく「非会員学生の登壇」について認めるかどうか、一般ルールとしての検討が必要という事になった。前述の領域11の検討と併せ総合的に検討する。

議題5. 新領域代表・運営委員の推薦・自己紹介・承認

以下の新領域代表、新運営委員の自己紹介があり、承認された。

領域代表（2015/04-2016/03）：遠山貴巳（東理大理）

領域副代表（次期領域代表）：佐藤憲昭（名大院理）

運営委員（2015/04-2016/03）：

(磁性)谷田博司(広大院先端物質/実験)、松浦弘泰(東大院理/理論)

(低温)酒井英明(東大院工*2015/04より阪大院理/実験)、町田洋(東工大理/実験)、

池内和彦(CROSS/実験)

(参考)

門野領域代表から次次期領域代表・運営委員の紹介があり、承認された。

次期領域副代表（次次期領域代表）：常次宏一（東大物性研）

次次期運営委員（2015/10-2016/09）：

(磁性)八島光晴（阪大基礎工/実験）、三澤貴宏(東大院工/理論)

(低温)清水直（理研／実験）、太田幸弘（原研/理論）

6. 合同セッションに関して

事務局としては主たる領域を決定してもらいたいようだが、講演申し込みによるので募集段階で主領域を決めるのは難しい。講演申込後に領域間で擦り合わせを行うようにする。

現在、領域 8 が関わる合同セッションは以下の 4 つ。

- ・領域 3, 8 「マルチフェロイクス」

学会毎に主領域が交代。今回は 8 が主領域。

- ・領域 7, 8 「超伝導対称性、発現機構」「モット転移」「相転移、臨界現象」

- ・領域 7, 8 「電界効果」

- ・領域 4, 8, 9 「トポロジカル絶縁体」

今回の講演募集時に第四キーワードとして「トポロジカル物質」を追加。

領域間で十分な打ち合わせが必要。

（事例）

2015 年秋季大会の募集要項の原稿の再校確認時に領域 8, 9 のそれぞれから「トポロジカル絶縁体」に関する合同セッションに関する記述があった。領域 9 の運営委員からこの旨の連絡を受け、運営委員で議論した結果、領域 8 の関連する記述を削除してもらう事とした。

（今後の対応案）

運営委員で合同セッションの調整役をする選任運営委員を決め、領域間での擦り合わせを行う。領域間の実際の交渉は領域代表が行う。

7. 概要集の電子版配信に関する議論

現状では最大 30 件が選択でき、ダウンロードが可能。1 年間は概要を閲覧可能。

→領域毎、セッション毎、午前/午後の講演毎など、まとめてダウンロードできた方がいいのではないか？

8. その他

8-1. 運営委員 2015 年 4 月 ~ 2015 年 9 月の役割分担（会議後の報告）

運営委員代表：川崎慎司

運営委員副代表：卞舜生

メーリングリスト、ウェブ担当：酒井志朗

書記担当：浅井栄大